



りんごのPRと農業のイメージアップを目指して名付けた愛称「THE RINGO STAR」。抜群のインパクト！

## THE RINGO STAR 仲間というチカラ

見渡せば親世代のベテラン揃い。家業を継いだ者、新たに栽培を始めた者、大きな夢を持つ者：そんな誰もが求めていたのが、若手生産者が集まり、夢や悩みなどを語り合える「場所」だった。

会が成長を続けるのは、晴山昌晃初代会長や宇津宮邦昭会長の優れた先導力と、会員たちの「我が組織」という高い意識だ。いや、こんな堅苦しい言葉は彼らには似合わない。ただただ、皆がこの会とメンバーとりんごが心底好きなのだ。思いの強さ故、ぶつかることもあるが、それが仲間の絆を固め、活動に一本の芯を通してきた。

役員を務める小原忍さんは「同世代の生産者が集い、活動を展開させる刺激的な場所。同じ志を持った夢も悩みも共有できる仲間の存在は大きい。一人で出来ない事も仲間となら叶えられる」と語る。

なぜ彼らは頑張れるのか、その答えがここにある気がした。活発な活動、地道な努力、それらの原動力は「仲間の存在」なのかもしれない。

## 活動を支える 仲間 という原動力



下段左から2番目、晴山昌晃初代会長。下段右、宇津宮邦昭会長



愛称「THE RINGO STAR」のポスター撮影。早朝4時に集合し、朝日の下で行われた



農業に対する、「地味」や「高齢化」などのイメージを払拭し「農業ってカッコいい」を創造する



## THE RINGO STAR 磨きをかける生産技術

## 日々の積み重ねが生みだす 大きな力と自信

PR活動や食育活動を行う会員たちの姿からは、りんご農家であることへの誇りを感じる。そしてりんごへの愛情が伝わってくる。だから彼らの活動や言葉は人の心に響くのだろう。

ただ、そこには日々の生産現場で繰り返される地道な努力がある。その生産現場での「土台」という裏付けがあるから、自分たちが作るりんごに自信が持てるのだ。

先進地研修の開催や県が年間を通して行うレベルアップ講座への参加などで、個々の技術向上のための研究や情報収集しているほか、定期的に会員の園地の巡回も行っている。

そして、その技術やアイデアは全員で共有する。惜しみなく自分の持っている全てを公開し切磋琢磨し合うのだ。

小さな積み重ねは、着実に力を蓄え、昨行われた「いわて純情りんごコンテスト」では優秀賞を見事受賞した。

1.2年間を通して栽培技術を学ぶ「ステップアップ講座」。講師の熱心な指導に聞き入る  
3.総会や会議では、技術向上に向けた活動の意見やアイデアが飛び交う  
4.5.いわて純情りんごコンテストへの出品を厳選する  
6.良品生産に繋がる重要な摘果作業も丁寧に  
7.8.10.先進地研修や会員園地巡回  
9.剪定交流会



### おいしいりんごができるまで

**①せん定 1~3月**

1年のりんご栽培の最初の仕事で、最も重要とされる作業です。樹の中まで日光が入り、また作業がしやすいようにりんごの枝を切り整え、良いりんごを作る準備をします。

**②人工授粉作業 4~5月**

りんごは、同じ品種の花粉では結実しない性質があるので、他の品種の花粉を授粉させる必要があります。マメコバチなどを利用しながら、人の手でも授粉を行います。

**③摘果 6~7月**

りんごは1つの花芽から4~6つの果実がつきます。大きなりんごにするため、小さいうちに形の良い果実を残し、他を摘み取ります。

**④防除作業 4~9月**

農業は厳しく定められた使用基準を守り、他の作物へ飛散しないように周辺環境にも配慮しながら使用しています。

**⑤着色管理(葉摘み・玉まわし) 8~10月**

収穫時期が近づいてきたら、着色を良くするため影を作る葉を摘み取り、より日光が当たるようにします。りんごは太陽が当たった部分だけ赤くなるので、全体に色づくように果実を回します。

**⑥収穫 8~12月**

りんごの味を確かめ、成熟具合を確認し、数日に分けて色の良い果実から収穫します。

### JAいわて花巻で栽培されているりんご

**おいしさの秘密**

- ★完熟収穫
- ★恵まれた環境と生産者の情熱
- ★無袋栽培(サンりんご)
- ★わい化栽培で丁寧なりんごづくり

<p><b>8月中旬~9月上旬</b></p> <p><b>紅ロマン</b>(シナノレッド×さんさ)</p> <p>夏に真っ赤に色づく極早生品種。ジュシーで、甘みとさわやかな酸味のバランスが良いおいしいりんごです。</p>	<p><b>8月中旬~9月中旬</b></p> <p><b>さんさ</b>(ガラ×あかね)</p> <p>果汁が多くて甘酸っぱく、また、やや小玉で果皮が薄く、丸かじりに最適です。</p>	<p><b>9月</b></p> <p><b>つがる</b>(ゴールデンデリシャス×紅玉)</p> <p>果汁が多く、早生品種では一番の甘さ。県産は他県産よりも肉質の硬さに優れています。</p>
<p><b>8月下旬~9月下旬</b></p> <p><b>きおう</b>(王林×千秋)</p> <p>サクサクした食感と、ほどよい甘酸っぱさと豊富な果汁が特徴。若手オリジナル品種第1号で日持ち性に優れています。</p>	<p><b>10月</b></p> <p><b>ジョナゴールド</b>(ゴールデンデリシャス×紅玉)</p> <p>10月収穫の花巻を代表する品種。甘み、酸味とも備えた濃厚な味。甘いりんごが多い中で個性的なりんごです。</p>	<p><b>10月中旬~1月中旬</b></p> <p><b>シナノゴールド</b>(ゴールデンデリシャス×千秋)</p> <p>黄金色でジュシー。糖度も高く適度な酸味があります。年を越しても歯ごたえと濃厚な味が楽しめます。</p>
<p><b>9月中旬~10月上旬</b></p> <p><b>紅いわて</b>(つがる×プリシラ)</p> <p>甘くて酸味が少ない赤いりんご。若手県のオリジナル品種第3号。昨年デビューした、今後期待される品種です。</p>	<p><b>10月下旬~11月中旬</b></p> <p><b>王林</b>(ゴールデンデリシャス×印度)</p> <p>果色は黄色で、適度な歯ごたえがあります。酸味は少なく果汁も多く、特有の芳香があります。</p>	<p><b>11月</b></p> <p><b>ふじ</b>(国光×デリシャス)</p> <p>りんごの代表品種です。シャキッとした歯ごたえ、甘みが強く芳香があります。当産地では蜜入りにこだわって栽培しています。</p>
<p><b>11月下旬~12月中旬</b></p> <p><b>はるか</b>(ゴールデンデリシャス×スターキング)</p> <p>上品な甘さとシャキシャキした食感。「はるか」の中でも、厳しい糖度・蜜入り基準を満たしたりんごが「冬恋」となります。</p>		